

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

英國における平地のチャンピオントレーナー争いは、年末まで開催されるオールウェザー開催の数字も集計の対象となるため、この原稿を書いている12月半ばの段階で確定はしていない。だが、現状において2位のアンドリュー・ボールディングに50万ポンド以上の差をつけ、自身初のリーディングを当確としているチャーリー・アップルビー（46歳）を、今月のこのコラムの主役として取り上げたい。

英國南端の街サウサンプトンに生まれ、故郷同様にドーバー海峡に面した港の街プリマスで育ったチャーリーは、騎手になるとの志を胸に、16歳の時にユーマーケットに移住した。だが、この頃から急に体が大きくなり、騎手の道を断念。伝説の騎手レスター・ピゴットの妻スザン・ピゴット調教師が當る厩舎に厩務員としての職を得て、将来の夢である調教師を目指して研鑽を積むことになった。

その後、デヴィッド・ローダー厩舎に移ったチャーリーは、そのローダー師がシェイク・モハメドが買収した仏国のエヴリ競馬場に拠点を移すと、師と行動をともにして仏国に移動し、厩舎のヘッドラッドとして従事した。

2年後、ローダー師の英國帰国を機に、ローダー師のもとを離れ、サイード・ビン・スルール厩舎に移ることになったチャーリーは、ゴドルフィンが送り出した歴史

的名馬ドバイミニアムに、アシスタントとして関与するという幸運に恵まれている。

その後、ゴドルフィンのもうひとりの専属調教師マームード・アル・ザルーニのもとに移り、アシスタントを務めていた彼に、青天の霹靂とも言える転機が訪れたのが、13年7月だった。ザルーニ師が、長年にわたって禁止薬物のステロイドを管理馬に与えていたことが発覚。統轄団体から8年間の資格停止処分を受けたザルーニを、ゴドルフィンは当然のことながら解雇。その後釜に、チャーリー・アップルビーが指名されたのである。

同年7月31日には、キャップオラッシャズでG3ゴードンを制し、早くも重賞初制覇。さらに同年11月には、アウトストリップでサンタアニタのG1BCジュヴェナイルターフを制し、G1初制覇を達成。新生アップルビー厩舎は順風満帆の滑り出しを見せた。

13年には60勝だった年間勝ち星が、14年には百勝の大台を突破する102勝になり、15年には151勝まで上昇。ゴドルフィンの総帥であるシェイク・モハメドの信任を篤くしていったアップルビーが、ついに大仕事を成し遂げたのが18年だった。管理馬マサーでG1英國ダービーを制し、ゴドルフィンとして悲願のダービー初制覇を成し遂げたのである。同時にそれは、

アップルビーにとって3歳クラシック初制覇であった。

同年後半には、クロスカウンターによるG1メルボルンC制覇も成し遂げている。

迎えた21年、春のドバイ開催で7つの重賞制覇を果した後に欧州の平地シーズンに突入すると、アデイヤーで2度目のG1

英國ダービー制覇を達成。アデイヤーはその後、英國競馬の上半期を締めくくるアスコットのG1キングジョージ6世&クイーンエリザベスSをも制覇している。

さらにハリケーンレーンで、G1愛ダービー、G1パリ大賞、G1セントレジャーと、

3か国のG1を制覇。そして11月に北米のデルマーで行われたブリーダーズCで

は、モダンゲームズでG1BCジュヴェナイルターフを、スペースブルースでG1BCマ

イルを、ユビアードでG1BCターフを制するという、八面六臂の活躍を見せることがになった。

さらにアップルビー厩舎には、G1ナショナルS、G1デューハーストSという2つのG1を含む無敗の4連勝で2歳シリーズを終え、来春の二千ギニーへ向けた大本命と目されているネイティヴトレイルが控えている。

アップルビー師は21年を振り返り、「キングジョージ優勝が最も強い印象として残っている」とコメントしている。